



※掲載画像は完成イメージです。

可決

8/21

継続事業費 6 億円増額 補正予算案

増額分 《6 億円》の内訳
 3工種の設計見直し…約 0.5 億円
 減額の取り止めで…約 4.1 億円
 諸経費全般の見直し…約 1.1 億円
 【口頭】消費税込分…約 0.3 億円

増額補正

臨時議会

集してやる。

Q スリムにした本体躯体工事を一般競争入札でゼネコンに、細分化した他工事を地元業者に発注してはどうだ。

A 契約補償や、諸経費・現場管理費を考えると、これ以上の分割は難しい。

Q 本体建築はゼネコン、細かい工事は地元業者、設計管理が久米設計なら期待できる。

■専決処分報告について

■平成24年度一般会計補正予算(第3号)について

※財源内訳資料の改訂版

※全体工程表

※地元建築士による設計書の検証結果表

○7月31日提出の補正予算案と同様の提案です。

○地元的设计士に検証頂きました。頂いた提案は、出来るものは設計に反映させたい。

○工程的には、子ども園の完成は当初計画より遅れる可能性もでてきた。

▼主な質疑

Q 交付団体になる前提の予算だが、交付税算入は確かなのか。

A 責任の所在と工事期間の問題が残る。

Q (資料もあり)これなら町民に説明できる。説明の計画は。予算が認められ、入札が行われた時点で説明したい。

財源内訳資料(8/21)より

単位:千円

《H.22~27》	当初計画	H.24当初予算	8月補正予算	※現状での計算上の金額です。実際にはこれに利子が加算されます。
総事業費	3,800,000	4,100,000	4,700,000	
補助金	809,000	1,296,750	1,400,238	
起債	2,033,000	1,592,700	1,993,400	
実質負担額	1,601,400	700,674	839,026	+1.38億円 +
基金(一般財源)	1,000,000	1,210,550	1,306,362	+0.96億円 II
				+2.34億円

※交付団体になるので、6億円増額の場合でも、湯沢町の負担額増加の合計額は、2.34億円にとどまる。

A 今の制度が変わらなければ、トータルして相当額の交付税が入るといって予算計画。

Q 地元設計士の懸念もある。26年4月の開校は大丈夫か。

A 間に合いたい。

Q 防災減災の借入枠は確かか。

A 県に確認済み。

Q 町は25~27億円と公表したのに32億円。歩切りを戻すで

Q 財源見込の資料中、プールのせいで41億円になったように読める。間違いでは。

A 削除して訂正する。

Q 長期間説明をしてきたことを3月議会で決めた。プロセスからして、6億円の不足については町民に説明すべき。

A 見解は確かに承った。

Q 次の議会にもう一度同じ補正予算が出てくるのは、如何

4億1000万円。町長はこれをどう捉えているか。

A 東日本の復興需要の影響かと思う。

Q 6億円の説明は町民にされていない。「まかりならん」の声にどう応える。

A 補正予算可決後に再入札、落札者決定後、広報等で分りやすく説明したい。

Q 地元設計士検証の「妥当」は、継続費38億円に対してか、44億円に対してか。

A 44億円に対して。

Q ならば38億円程度(実質41億円)ではない。方針の変更だから町民に説明すべき。

A 基本構想の合意は得て進んでいる。具現化の細かな事は全てを説明できない。今、混

なものか。

A 同じ議会でなければ、問題はない。金額は再確認中。

●その他

◆SRS(株)の過去5期の決算書確認について

◆埼玉県松伏町との災害援助協定の締結について

◆湯中生徒と保護者に対する落書き事件について

乱を起こすような事はできないので、事後に説明をしたい。

Q 6億円の増額は、文教施設整備委員会の議論と異なるが。

A 委員会は役目を終えている。検討結果は尊重している。現段階での説明は必要ない。

Q 補正予算の説明資料は、この度のようにきちつと数字を出して明確にすべきだ。今後

A そのようにします。

▼討論(反対討論は次頁に掲載)

反対討論:岸野、高橋、角谷

賛成討論:半澤、師田

▼採決(11名)

『賛成6』多数で、可決